

# 鉄筋コンクリート造天守の老朽化について

---

令和元年7月29日  
第6回復元WG資料

## SRC/RC造天守について

- 国指定史跡の近世城郭においては、14の天守がSRC/RC造で再建されている。

松前城、会津若松城、小田原城、小牧山城、名古屋城大小天守、岐阜城、大坂城、和歌山城、洲本城、福山城、岡山城、広島城、熊本城

- 国指定史跡の近世城郭におけるSRC/RC造天守は、昭和4年から昭和43年までに建造されている。
- SRC/RC造建造物の耐用年数は、鉄筋コンクリート造という観点では約50年

R C (Reinforced Concrete) ... 鉄筋コンクリート構造

SRC (Steel Reinforced Concrete) ... 鉄骨鉄筋コンクリート構造

# SRC/RC造天守が果たしている役割①

(整備計画や保存管理計画における記載を参照)

- 「史跡の価値を顕在化及び保存・活用に有効または必要な要素」や「史跡を維持・管理していく上で必要な要素」として、「保存・活用に関わる要素」となっている  
天守以外の復元建造物も含む。  
なお、「史跡の本質的価値を構成する要素との関係や利便性、景観、劣化状況などを考慮しながら、そのあり方や活用・整備の内容を考える。」とされている。
- 「『市立 城博物館』として城に関する史資料の展示や 市内の文化財に関する展示が行われている」  
(平成30年 城保存管理計画を参考)
- 築城主ゆかりの品々を展示する歴史博物館の機能」を有している
- 年間約120万人～140万人が訪れる 随一の観光施設で、「城の歴史や城域内に点在する古建造物、巨石、刻印、伝説など、 城の魅力を幅広く紹介するガイドンス施設としての役割を果たし、観光客の関心や期待に応えている。」
- 「城の中核施設としてこれまでに蓄積された収蔵品や研究成果を活かし、 城全体の魅力向上に向けた取組を強化する。」  
(平成30年 城保存管理計画を参考)

## SRC/RC造天守が果たしている役割②

(整備計画や保存管理計画における記載を参照)

- 「復興天守内部は、城資料館として 家関係資料を展示している。」  
(平成8年 城保存管理計画を参考)
- 「市内の多くの場所から仰ぎ見ることができ…(中略)…観光の拠点であると同時に地域のシンボルとなっており、模擬天守を含んだ景観が…(中略)…市民に認知されている。」  
(平成24年 城保存管理計画を参考)
- 「城跡内の景観」を形成している
- 「市の都市景観づくり」に寄与する
- 「模擬天守閣は 城及び 市のシンボル・ランドマークとして長く市民に親しまれ…(中略)…自然の中に溶け込んでいるなどの理由により、当面現状を維持」  
(平成14年 城保存管理計画を参考)

# SRC/RC造天守が果たしている役割

## SRC/RC造天守

- 博物館
  - 史跡の説明・・・過去の城主、城で起こった出来事等の説明
  - 地域の歴史・・・過去の出来事等の説明
  - 郷土資料館・・・上記に加え、郷土史の理解に資する史料等の展示
  - 景観の形成・・・城郭があった景観を形成



## 木造復元された歴史的建造物

- 公開施設
  - 史跡の往時の姿を体感することで、史跡の価値の理解促進

## 現存天守等

- 公開施設
  - 史跡の本質的価値の要素として、公開等を行い、それ自体が史跡を体感するツールとなっている

## R C造天守が抱える課題

### 耐震対策・老朽化に伴う更新等の 対応を検討する必要性



耐用年数が50年程度であるとする、14の天守いずれについても昭和44年以前に再建された天守であるため、早々に更新等の対応を迫られることとなる。

既に、小田原城、大坂城等については老朽化に伴う問題について対応済